

巻頭言
Greeting

×

山崎 龍一

Ryuichi Yamazaki

聖書神学舎 理事

(お茶の水クリスチャン・センター常務理事)

Profile

1963 年東京生まれ。高校時代に三浦綾子の著作に出会い 18 歳で受洗。会社及び公益財団法人勤務を経て、1993 年よりキリスト者学生会 (KGK) 主事、事務局長、総主事を歴任。2014 年からお茶の水クリスチャン・センター常務理事。2024 年より聖書神学舎理事を兼任。



この世に立つ教会に仕える

以前ある神学校で数年間、特別講義を担当したことがあります。講義内容は教会実務(会計、宗教法人法、役員会の運営、文書管理等)に関するもので、毎年講義の最初に次のような質問をしました。「教会の役員会で次のような意見が出されましたが発言内容に誤りがあります。どこが誤りであるかを指摘し、その理由を述べてください」と説明をした後、「最近監督官庁が厳しくなっているので、宗教法人の認可は難しくなっています」という発言を紹介しました。宗教法人法を教会的に理解するには、日本キリスト教史を紐解きながら「教会と国家」という思考を深める必要があることを神学生に考えてもらいたかったからです。数年間この特別講義を担当しましたが、正解者は一人もいませんでした。

戦時下の宗教団税法では「教義の概要、礼拝内容、教団統理者その他の機関の任免、教師の資格」等が国の認可制となっていました。旧日本基督教団に合流した教会は法令遵守の名のもとにキリストのからだとしての教会の主権を守ることができなかった歴史を担っています。その後宗教法人法と改められ、宗教団体の財産管理のみを扱う法律となり、認可制は廃止され、準則主義の立場を取る認証制に移行しました。一定の条件を満たせば認証される法的建付けです。行政の通達でも「宗教法人法は宗教そのものの領域に関するものを排している」「宗教法人規則の作成にあたっては法定事項以外の事項を掲載しないように特に注意すること、特に宗教面に関する事項は記載しないこと」とあります。

数年前、聖書神学舎の監事(昨年から理事)に就任し、教憲教規や法人規則を確認したとき、前述の文脈に基づき改訂の必要があると考えるに至り、理事会や評議員会そして教師会の先生方と共に協議を重ね、昨年の通信 195 号にて報告されたように学び舎としての聖書神学舎と宗教法人聖書宣教会の組織と規則の機構変更をしました。

この協議の過程は世における教会形成について大変考えさせられる出来事となりました。宗教法人法に關しての共通理解に至るには時間を要しました。聖書を原語から丁寧に読むことを大切にしているように、教会の実際と「教会と国家」という神学的理解の根幹にかかわる宗教法人法理解と関連文書そして行政通達を丁寧に読み解き検証する必要がありましたが、実際の協議においては各々の経験や個人の考えに基づく意見が交わされることも少なからずありました。この検証力が弱まると、この世が巧妙に教会の中に潜み入る機会を与えることになります。教会はこの世に立ちますが、この世が教会の中に立つことには丁寧に検証した上で「否」とすることが大切です。聖書を丁寧に読むことと同じように宗教法人法をはじめとするこの世の思考を丁寧に読み解くことが教会に仕えることに繋がっていきます。聖書神学舎の法人理解と組織がモデルケースのひとつとなり、諸教会の礎となることを願っています。

No.201 Topics

- p03 学びの窓
- p04 夏期研修講座
- p05 教会音楽夏期講習会
- p06-07 キャラバン報告

祈りをやめるのは

伊藤 暢人

Nobuhito Ito

聖書神学舎 教務主任

私もまた、あなたがたのために祈るのをやめ、主の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教えよう。

(1サムエル 12:23)

預言者サムエルは、民が王を求めたことについて彼らの罪を指摘しました(12:12,17)。しかし、そんな民のために祈るのをやめるならば、それは彼が主の前に罪ある者となることであると自覚していました。罪を指摘しつつ、逆に自分の罪についても示されています。祈ること、また、「良い正しい道を教える」こと—これが、主に仕える者たちに委ねられた大切な使命であり、私たちの務めの中心であることを教えられています。

学舎近況

いつも聖書神学舎の働きを覚えてお祈りくださる諸教会、諸兄姉の皆様、尊いお祈りとお支えを心から感謝いたします。4月に6名の新入生を迎え、今年もそれぞれの救いと召命の証しをチャペルで聞き、主の導きを新たに覚えました。ただ、残念ながら新入生1名がほどなく体調を崩し、6月より休学となりました。主の癒やしとお支えをお祈りいただければ幸いです。

夏の間に行われた夏期研修講座、教会音楽夏期講習会、伝道実習(キャラバン)については、それぞれの報告・証しをご覧ください。主が今年も豊かな学びと訓練を備えてくださったことに、御名をあがめています。

夏期調整期間前には小さな「事件」もありました。3階女子寮の洗濯場で給水管が破損し、洗濯場には水たまりが現れ、階下の男子寮室の天井からは水が滴る事態に。女子寮では時短入浴、男子寮ではバケツリレーと、皆で助け合いな

がらの1週間でした。無事に修繕が完了し、今は平常に戻っています。

聖書神学舎デイ

みことばを読む喜びを共に味わい、学舎の働きを知っていただく機会として、この数年「聖書神学舎デイ」を開催しています。開催地や教会グループがなるべく重ならないようにしながら、以下の教会を会場にお借りしてこれまで行わせていただきました。

- 2022 年度
日本長老教会・横浜山手キリスト教会(神奈川県)
- 2023 年度
JECA・キリスト教朝顔教会(東京都)
- 2024 年度
単立・東京聖書教会(東京都)
- 2025 年度
東大宮福音自由教会(埼玉県、6月28日)

今年は横山昌英先生が「ヨハネの福音書11章における神の愛」と題して、一つの接続詞をどのように理解するかに焦点を当てながら、ミニ講義を行ってくださいました。ほかに、特別賛美(「慰め主なる主を」)、研修生たちによるスキットやクイズ、小グループに別れての分かち合いなど、盛りだくさんなプログラムでした。多くの方にご来場いただいたことを感謝します。研修生たちも大きな励ましをいただきました。

皆さんの教会でも、もしお迎えくださる所がございましたら、ぜひ学舎までお声かけください。開催方法や日程についてご相談・調整させていただきます。

千年期について

横山 昌英
Masahide Yokoyama
聖書神学舎 教師

「千年王国」論は、終末論の中で最も議論となる主題であり、歴史に多大な影響を及ぼしてきました。ヨハネの黙示録 20 章前半が、この主題について直接言及している唯一の箇所です。

記述の「千年」を字義通りに解すべきか否か、また 20 章に先立つ主の再臨 (19:11-16) との関係により、大きく千年期前再臨説、千年期後再臨説、無千年期 (王国) 説の 3 説があります (以後、「前」説、「無」説)。聖書釈義の成果から、「前」説が有利とされてきましたが、福音派の中でも「無」説を提唱する学者がおり、依然議論が続いています。

米国の新約学者 T. R. Schreiner は近年の注解書で、「無」説と「前」説双方の長所を保持する「新しい創造の千年期」説 (New-Creation Millennialism) を提唱しています。Revelation (BECNT: Baker Academic, 2023)。

「千年」は新天新地 (21:1) の「最初の時代」であって、死や背信者を含む「古い創造」の一部ではないと Schreiner は述べます。「第一の復活」(20:5,6) は、「無」説が主張する回心でなく字義通りの死者の「復活」である。一方、「前」説 (の一部) が抱える最大の弱点として、後に出現する反抗者 (8-10 節) の出处を千年期における人間の生殖活動等から説明する点を指摘します。これについては、19 章の「戦い」で「残りの者たち」全員が「殺され」(11 節)、その「残りの者たち」が千年の終わりに生き返り (20:5 前半) 最後の「戦い」に参戦する

も、悪魔とともに滅ぼされると説明します。

以上「新創造」説は、千年期の完全さを保持しつつ、「無」説と「前」説が抱える問題に解決を提示している点で評価できます。この期間、聖徒だけ存在することは、(被支配者を欠く)「王となった」(20:4 私訳)、「王である」(6 節私訳)とも合致します。ただし課題も内包しています。

Schreiner が主張するように、「千年」が新天新地の一部であるなら、時間を超越した永遠性が及んでいるはずです。彼は「千年」を「比喩的」とする一方、「時間の区切り」「最初の時代」とも述べます。永遠の中に「時間」「時代」をどう位置づけるのかについての説明はありません (空間の問題もありますが割愛)。

黙示録 20 章前半は、「イエスの証しと神のことばのゆえに」殉教した者たち (6:9-11) への最終的な応答に主眼を置いています (20:4)。具体的には、反神的勢力による迫害に対し (13 章)、イエスに倣う殉教としての「勝利」(12:11; 15:2) を提示しており、「勝利者」への約束の成就が確約されています (3:21; 20:4)。

千年期がどんな時代であるのか、解明への努力は重要です。ただしその内容と意義については、黙示録における位置づけに目を留めるべきでしょう。人間の好奇心や神学の構築のためでなく、聖書自身の主張を読み取ることが大切です。詳細はモノグラフ『釈義と神学』(第 2 号)をご覧ください。

夏期研修講座報告

鞭木 由行

Yoshiyuki Muchiki

聖書神学舎 講師
奥多摩福音キリスト教会 牧師

今年の研修テーマは「教会と説教」でした。今年度のテーマを決めなければならない教師会の日に、たまたま某先生がロイド・ジョンズの『教会とは何か』を持参してきて、結局その本を取り上げる形で夏期研修を持つことになりました。ネット上では法外な値段で取引されていましたが、これを機にいのちのことば社が再販を決めてくれたのは幸いでした。この書物の後半に「説教とは何か」と題された講演が載っていることはあまり知られていないことでしょう。今回は『教会とは何か 説教とは何か』とフルタイトルで出版されました。

教会と説教は牧師にとっては日々の現実であり、身近なテーマであるので、出席者は多いのではないかと予想しましたが、どっこい、そうはいかず、総数では50名くらいでした。しかし、少人数であるゆえの落ち着いた雰囲気もあり、振り返ると全体としての絞れた良い研修の時となったのではないかと思います。

教会とは何かを知らずして教会に仕えていくことはできないはずですが、どれだけの人が、教会とは何かを明確に理解して奉仕をしているのでしょうか。ロイド・ジョンズは、使徒の働き2章42節以降から初代教会の姿を描き出し、教会が初めにあったところに立ち返るようにアピールしています。またロイド・ジョンズが夢の中で生涯わずかに2回だけできたという真の説教(Preaching)を私たちも祈り求めていきたいものだと思われました。

教えていただく恵み

野村 啓祐

Keisuke Nomura

札幌希望の丘教会 牧師

私は聖書神学舎での学びと訓練の期間を経て、2019年4月から北海道の教会で奉仕をしています。牧師となってからは、教会の歩みには毎日新たなハプニングがあり、牧会は応用問題だらけだということに気付かされています。そんな中、牧師は人に何かを教えること以上に、自分自身が教えられることが大切なのだと日々痛感しています。

幸いなことに、私は様々なところで多くの方から教えていただける環境に恵まれています。年一度の聖書神学舎の夏期研修講座に参加させていただくこともとても貴重な機会の一つです。今回も、これまでお世話になってきた教師の方々を通して、聖書のみことばから「教会と説教」について教えていただきました。そして、小グループに分かれ、私の「戦友」(同期の仲間)を含む参加者の方々と分かち合う時間もいただきました。私はこれらの充実した学びと交わりを通して、聖書のみことばから教えられて分かち合うことが牧師の働きにとって最も大切なことであると、しみじみと実感することができました。

北海道から夏期研修講座の会場までは、長い時間をかけて、比べ物にならない暑さの中、比べ物にならない人の多さの中、比べ物にならない複雑な交通を用いて来なければなりません。それでも、毎回必ず「来てよかった」と思えることを感謝いたします。



第 40 回教会音楽夏期講習会を終えて

須田 松子

Shoko Suda
聖書神学舎 講師

2025 年 7 月 23 日(水)～25 日(金)の日程で聖書神学舎において、教会音楽夏期講習会が行われました。参加人数は 15 名、その内初めての参加者は 5 名でした。今回は宿泊手配が従来と異なりましたが、参加者の皆様が、それぞれ工夫して手配され、また体調も守られて、予定通りの三日間を過ごすことができました。

今年のテーマは、「みことばと音楽」詩篇 100 篇「全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ」でした。講義Ⅰ「聖書から礼拝を考える」、講義Ⅱ「詩篇 100 篇」、講義Ⅲキリスト論「キリストを知ることの成熟」、講義と演習「礼拝音楽の理念～H. シュッツの聖句モテットの観察を通して～」の学びにより、礼拝について、キリストについての知識を深めました。そして講習会最後の閉会礼拝は、賛美礼拝というかたちをとり、一同で共に主をあがめ、みことばの釈義によって作られた合唱曲を、より深く理解しつつ賛美することができました。

今回は、少人数ではありましたが、分科会のレッスンやワークショップ、交わりなど、時間にゆとりを持って行えたことは感謝でした。来年度に向けて、参加者の皆様のアンケートによるご意見も大切に、講習会全体がより良くなるために、祈っていききたいと思います。

CHECK

教会音楽講座（後期）のご案内

期間：11 月 17 日から 2026 年 3 月 2 日（全 7 回）

会場：東京聖書教会（目黒区八雲）

教会音楽講座（前期）を受講して

豊嶋 麻子

Asako Toyoshima
横浜山手キリスト教会

信仰をいただいたのは約 35 年前。未信者家庭に生まれ、ミッションスクール出身でもない私にとってキリスト教の礼拝が音楽で始まり音楽で終わることはとても新鮮でした。礼拝賛美がただの合唱ではないことはすぐにわかりましたし、未信者の友人が礼拝が始まるやいなや前奏を聴いて涙を流した時には共感を覚えました。礼拝賛美は一般の合唱と何が違うのか、なぜ礼拝音楽で人の魂は揺さぶられるのか、長い間奏楽奉仕をお捧げしつつも謎のままでした。今その謎がこの講座によって徐々に解き明かされつつあります。

この講座では音楽を以てまことの神を賛美することは聖書の中で明確に説かれている信仰者の務めであることを、旧新約聖書の原語までもを紐解く中で教えていただいています。礼拝音楽の第一の目的が我々側の心情の吐露ではないことを確認できたことが私にとっては最大の収穫でした。神への感謝や救われた感動が賛美に表現されることは言うまでもありませんが、それが主体ではなく、あくまでも神への賛美、そして神からの教えを我々の心身の深くまで染み入らせ、宣べ伝えることが礼拝音楽の担う役割です。

今後はオルガン奏楽者として賛美歌やコーラルをよく理解し十分な技術を以て奉仕できるよう一層修練していきたいです。各分野の第一人者の先生方から直接ご指導いただく恵みに毎回感謝でいっぱいです。

ともに主の働きを

原口 謙

Ken Haraguchi

2025年度 キャラバン実行委員長

三つの教会へとキャラバン伝道チームが遣わされ、奉仕することができたことを主に感謝いたします。また歓迎してくださった皆さま、祈りに覚え送り出してくださった皆さまに感謝いたします。

今年度は「ともに主の働きを」というテーマを掲げていました。実際に宣教の現場にある教会に遣わされ、その地でなされている主の働きに、私たちもともに参与させていただきました。その中で多くの恵みをいただきました。各チームの報告をご覧ください。与えられた学びや経験を糧として研修生活に励んでまいります。

「恐れるな」との御声を聞いて

湯本 赦頼

Sharai Yumoto

飯田知久町教会・竜丘キリスト教会 牧師

2年前、キャラバン派遣要請をして良いものか悩んだ。牧会伝道の「働き人」(マタイ 9:38)を切望してはいたが、十分なお迎えができるのか。有益で健全な学びと訓練の機会を提供できるのか。伝道の新たな挑戦に漕ぎ出す準備が教会にあるか。負い切れぬと知りつつ、「主よ、お心一つで」と、答えを委ねて母校の門を叩く。その先にあったのは、私の恐れを覆して進む、宣教の主の御業だった。みことばに研がれ続ける献身者たち。語られるみことばとそこに堅く立つ姿を通し、教会、キリストのからだの各器官が一つひとつ奮い立たされてゆく。御自身の器を顧みられる主が、この地を福音宣教の一角として用いてくださった。今年は兼務教会にも戦線拡大。前回キャラバン受入れ直後に始動した兼務。苦しい時代にあって、それでもみことばを語り、種を蒔き続ける教会の幸いを共に味わった。「恐れるな。わたしがあなたを助ける」(イザヤ 41:13)。仕えてくださった研修生の方々、送り出してくださった学舎と諸教会の祈りに心から感謝しつつ、己の不信仰を恥じながら、宣教の主の頭に垂れて。

① 日本福音キリスト教会連合 久居聖書教会 (三重県)

7月1日(火)~7月7日(月) 榎本芽莉、石川賢汰、伊藤聖香、庄山奈津実

「キリストのからだ」 教会は約30年ぶりにキャラバン伝道を受け入れて下さいました。現在、福祉事業、賛美伝道、子育て支援、土曜学校等において、みことばが語られています。

私達は、不安も感謝もとりなしも、祈って共有し、一致していきました。熱く祈りを重ねるチームとされた事を感謝します。「慰め主なる主」の賛美も、主体的に練習を重ねる中で心と音が不思議と一つにされました。祈りと賛美に応え、神様がチームを祝福して下さいました。

土曜学校(子どもイベント)のために、案内チラシを配りました。小学校での配布当日、近隣地域だけが雷雨に襲われ、配布が下校時に変更されました。しかし、そのおかげで子ども達と楽しく交わる時に恵まれました。あるお父さんのお話から、子どもの頃教会に来て以来、何十年も祈られていた事が分かりました。みことばの種を撒き祈り続ける忍耐の先に、主は芽を出して下さる事を共に見せられた、慰めと喜びの一週間でした。

キリストのからだに加えられ、多くの経験をいただいて感謝しています。教会のこれからの祝福を、祈り続けます。ありがとうございました!(榎本)



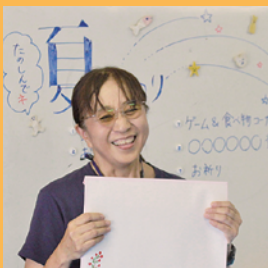
2 日本福音自由教会 奈良福音自由教会（奈良県）

7月12日(土)～21日(月) 原口謙、中村瑞来、福留優子

「主の働きに加えられて」 私たちのチームは、奈良福音自由教会に10日間滞在しました。そのため主日礼拝を二回にわたって共にささげることができ、また1週間の中に行われる教会の集いのすべてに参加して、交わりを深めることができました。

具体的な奉仕は、礼拝説教、特別賛美、礼拝や集会での証し、教会学校のメッセージ、英語教室のチャペルタイムでのメッセージ、夏祭りでの寸劇とメッセージ、近隣への夏祭りの案内チラシとトラクト配布でした。また、ご病気のために教会に来ることができない信徒の方の家庭訪問にも同行させていただきました。夏祭りには、初めて教会に来た近隣の子ども達も加え、楽しい夏のイベントを共に過ごすことができました。

この教会に集う幅広い年齢層の方々は、とにかく生き生きと主の働きをされていました。特に伝道への熱い思いを、祈りの時はもちろん、普段の会話の端々にも垣間見ることができ、大変刺激を受けました。奈良の地での主の働きに加えていただいたこと、また奈良の地に導いてくださったことを主に感謝いたします。(福留)



3

05 キャラバン伝道報告 Caravan Reports

3 日本基督教団 飯田知久町教会（長野県）

7月15日(火)～22日(火) 平田美名、本間里辺香、高木真悟

「ただ主の愛に」 101周年を迎えた飯田知久町教会と竜丘キリスト教会に遣わされ、午前、午後、そして夜と、主日礼拝を3回ささげる機会が与えられました。礼拝説教、各集会での証や奨励など、福音を語る恵みにあずかりました。

みことばを準備する中で、まず私たち自身が神様の愛に生かされている喜びを新たにされました。そして、教会の方々との交わりを通して、大きな励ましを受けました。集われた方々が、遣わされた場所で主と共に生きることを求める証しをしてくださり、そのお姿に深く教えられました。また、竜丘キリスト教会で行われた子どもイベントには、新たに20名の子どもたちが参加してくださり、感謝でした。

このような尊い働きを兼牧で担っておられる牧師先生ご夫妻は、早天と家庭礼拝を継続されていました。私たちも共に祈る中で、主を愛し、主に委ね、祈りとみことばに従う信仰の姿勢を学びました。迎え入れてくださった飯田知久町教会と竜丘キリスト教会、送り出してくださった諸教会に感謝します。また、すべてが主のご計画の内になされたことを覚え、これからも愛の内になされる主の働きに期待します。(平田)



○ 図書館だより

田村 将

Masashi Tamura
聖書神学舎 図書館長

今年度から図書館長の責任を仰せつかりました。これまで多くを労して下さった鞭木由行先生に、紙面を借りて心から感謝申し上げます。今までの流れを汲み、大切にしながら、祈りのうちにこれからも図書館が豊かに用いられていくよう奉仕させて頂きたく願います。

目指すべき姿として、使いやすく居心地の良い図書館、みことばに聞き、主との交わりに与れる図書館、探求の扉を開く図書館、などを思いめぐらしています。その中でも特に、必要とする資料に行き着くことができる図書館でありたいと願わされています。私自身が研修生だった当時、卒業論文の執筆のために図書館をほぼ毎日利用しました。けれどもその際に困ったことは、最終的に目的の資料に行き着くことができない、ということでした。図書館に当該の資料がなかったり、データにアクセスする権限がなかったり、という状況でした。実際に目指す資料が図書館で提供できなくても、せめてアクセスへの道筋だけは示せるようになればと願っています。

ともあれ、現状では週に二日程度しか実際に図書館にいたることができませんので、取り組みは限られたものになると思います。そのような状況で今すぐの変化は難しいですが、皆さまとともにより良い図書館を目指していければ幸いに思います。ご意見等あれば是非お寄せください。

○ 聖書神学舎からのお知らせ Information

○ 「オープン・デイ」のお知らせ

11月8日(土)

聖書神学舎の授業や礼拝を公開する一日です。普段の授業を参観していただき、小さな学びの機会としていただきたいと思います。神学校での学びを祈っておられる方々にとっても、主の導きを探る大切な機会となることでしょう。どの時間から参加していただいても結構です。申込は不要です。

(駐車スペースが足りませんので、直接車でのご来訪はご遠慮ください。)

	I限 8:20-9:05	II限 9:10-9:55	10:00- 10:30	III限 10:40-11:25	IV限 11:30-12:15	昼食 12:15-
	教会史 (若井 和生)	チャペル		ギリシャ語(中級) (横山 昌実)	簡単な昼食 を提供 します。	
	旧約研究Ⅰ(五書) (田村 将)		組織神学Ⅳ(キリスト論) (赤坂 泉)	時間の許 す方は交 わりにご 参加くだ さい。		
	旧約研究Ⅲ(聖文書) (伊藤 暢人)		説教者 (伊藤 暢人)	旧約釈義Ⅲ、Ⅳ (田村 将)	当日の申 込にて無 料です。	
	新約研究Ⅱ(使徒の働き) (三浦 謙)					

(時間割は当日変更となる場合もあります)

○ 「賛美礼拝」のお知らせ

11月29日(土) 14:30-

「真に幸いなこと」

聖書：詩篇32篇
説教：鞭木 由行
(聖書神学舎講師、奥多摩福音キリスト教会 牧師)

(駐車スペースが足りませんので、直接車でのご来訪はご遠慮ください。)

賛美礼拝は、賛美のうたをもって主をほめたたえ、主のみことばを聞き、主を礼拝するときです。研修生一同、聖歌隊としての訓練を受けて、この日の奉仕に備えています。ご参加くださる皆様と共に礼拝をささげたいと思い、皆様をお誘いします。申込は不要です。